

## 調査の概要

### 【目的】

小学校学習指導要領の次期改訂に資するため、今次改訂の改善事項を中心に、各教科等の目標や内容に照らした児童の学習の実現状況について調査研究を行い、検討の基礎となる客観的データ等を得るとともに、教育課程の基準に係る課題の有無及びその内容等を検証・総括する。

### 【時期、対象学年及び教科等】

- 調査時期：令和5年2月6日（月）から令和5年3月3日（金）
- 調査対象：公立小学校 1,170校（義務教育学校前期課程含む） ※全学校の約7.1%、無作為抽出  
実施児童数（延べ） 120,378人
- 内容：
  - ：各教科で、①今回の改訂の基本方針に関する事項、②各教科等の主な改善事項（今回の改訂で新設された事項、学年及び学校種を超えて移行した事項）、③従来、課題とされている事項の視点に基づくペーパーテスト調査を実施するとともに、一部教科で実技調査を実施。あわせて、児童、教師、校長を対象とした質問調査を実施。  
(教師、校長については、オンライン形式にて実施。)
  - ・ペーパーテスト調査：第3～6学年 国語、社会、算数、理科、音楽、図画工作、家庭、体育（運動領域、保健領域）、外国語（英語）
  - ・質問調査（学校）（児童、教師）：第2～6学年 生活、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間、特別活動、外国語活動
  - ・実技調査：第6学年 図画工作、家庭、体育（運動領域）、外国語（英語）

## （主なポイント）

### 各教科のペーパーテスト調査の結果から

- 「知識・技能」について、事実的な「知識」は一定程度の定着が見られるものもある一方、「知識」の概念としての習得や、習得した「知識」を日常生活に当てはめたり、現実の事象と関連づけて理解することには一部に課題があると考えられる。
- 「思考力・判断力・表現力等の育成」の観点から、例えば児童が具体的な問い合わせを見いだす点等については、定着が見られるものもあると考えられる一方、目的に応じた課題解決、自分の考えや根拠を明確に説明するといった点については、課題があると考えられる。

### 生活、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動の質問調査の結果から

- 質問調査では、学習状況や学校生活等について概ね肯定的な回答が多く見られるが、同様の趣旨の項目において、教師の認識と児童の受け止めに差があるなど、課題が一部で見られる。

### 教育課程全体に係る質問調査

- 主体的・対話的で深い学びや、資質能力の3つの柱、見方・考え方などの学習指導要領が提唱する基本的な考え方については、現場の教育課程や学習指導の改善等に良い効果を与えたとの回答が多く見られる。
- 学習指導要領の趣旨実現を妨げる要素としては、多忙化や人員確保、研修時間の確保などの回答が多い。
- 標準授業時数について、教育課程編成に係る学校の裁量を広げることについては、多くの学校が賛成。年間授業時数を確保した上で、教科間の授業時数の調整を可能とするような取組を行ってみたいとする学校が多い。

# 令和4年度 小学校学習指導要領実施状況調査について（ペーパーテスト調査等）

## ペーパーテスト調査等の概要

### ● 調査実施校：小学校 1,170 校 実施児童数 120,378人（延べ数）

※ 1教科1問当たり、3,000人程度の調査結果を得ることができるように、調査対象を無作為抽出した。

### ● データを見るにあたって

- 「1. 主な改訂のポイント」「2. 学習指導要領実施状況調査から明らかとなった成果と課題」「3. 2の成果と課題を踏まえた改善の方向性」「4. 調査問題例」の4構成と「4」に対応する問題を別紙（問題例）で添付。
- 「2. 学習指導要領実施状況調査から明らかとなった成果と課題」中の赤字部分は「相当数の児童ができている」もの、青字部分は「課題があると考えられる」もので、下線が付されているものは、「4. 調査問題例」及び別紙において問題例（質問項目例）が示されている。

※実技調査については、対象教科（図画工作、家庭、体育（運動領域）、外国語（英語）のペーパーテスト調査を実施する抽出校の中から調査を実施する学校を抽出。（1教科当たり350人程度：10校程度）

# 令和4年度 小学校学習指導要領実施状況調査の結果について（社会）

## 1. 平成29年学習指導要領の主な改訂のポイント

- 公民としての資質・能力の基礎の育成に向けて、社会的事象の見方・考え方を働きかせ、問題解決の見通しをもつ活動や社会的事象の特色や意味を考え説明する活動、社会への関わり方を選択・判断し、よりよい社会を考えようとする活動などの問題解決的な学習活動の充実を図る。
- 中学校社会科への接続・発展を視野に入れて、内容の枠組みと対象を「地理的環境と人々の生活」「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」「歴史と人々の生活」と整理し、社会科の特質を踏まえ、内容の改善を図る。

## 2. 学習指導要領実施状況調査から明らかになった成果と課題

- 資料から問い合わせをすることは相当数の児童ができているが、問題解決の見通しをもととすることに課題があると考えられる。
- 資料から情報を読み取ることはは相当数の児童ができているが、社会的事象の特色や意味を考え説明することや、読み取ったことを基に図や文などにまとめることに課題があると考えられる。
- 社会に見られる課題を捉え、社会への関わり方を考えようとすることに課題があると考えられる。
- 内容により基礎的な知識及び技能の定着に課題があると考えられるものや具体的な事実に基づいて社会的事象の特色や意味を理解することに課題があると考えられる。

## 3. 2の成果と課題を踏まえた改善の方向性

- 指導上の改善点
  - ・学習の問題について追究・解決の見通しをもつ活動、複数の情報を関連付けて社会的事象の特色や意味を考え説明する活動、学習で身に付けた知識を使って自分で考えた図や文などでまとめる活動を重視する。
  - ・社会に見られる課題を踏まえ学習したことを基に、自分たちにできることなどを考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりする活動を重視する。
  - ・内容に関しては、例えば、地理的環境の学習において基礎的な知識や技能が定着する指導や、例えば、政治の学習において具体的な事実や意義などを政治の働きと結び付けて考えるようとする指導の充実を図る。

## 4. 調査問題例（ペーパーテスト 小学校/社会）

### 「資料から問い合わせをすること」の問題例（別紙1参照）

- 今回の学習指導要領の改訂に当たり「問題解決的な学習活動の充実を図ること」を重視して、「思考・判断・表現」の観点から作成した。

- 「思考力、判断力、表現力等の育成」に関連し、「問い合わせをすること」を問う問題として、作物の種類と生産量に着目して、問い合わせをいただいていることを問う問題を出題。【通過率 85.4%】

### 「読み取ったことを基に図や文などにまとめる」の問題例（別紙1参照）

- 今回の学習指導要領の改訂に当たり「問題解決的な学習活動の充実を図ること」を重視して、「知識・技能」の観点から作成した。

- 「知識及び技能の育成」に関連し、「学習したことを図や文などにまとめる」を問う問題として、資料を関連付けて、国際交流に取り組む地域の特色を説明する問題を出題。【通過率 25.9%】

## 「資料から問い合わせること」の問題例

### 社会 第3学年(2)「地域に見られる生産の仕事」

- 作物の種類と生産量に着目して、問い合わせていることを問う問題
- 資料(表)から作物の種類と生産量に着目して、見いだした問い合わせについて選択肢から適切なものを選ぶ問題
- ・資料である表と子供の言葉を関連付けて作物の種類や数量を読み取り、追究する視点に着目した問い合わせを見いだす。
  - このような問題から、社会的事象に着目して、問い合わせを見いだす力(思考力、判断力、表現力等)の育成の状況について測る。

③ 次の表を見て、あとの問題に答えましょう。

A市で作られている作物	作られている量
トマト	30 トン
米	10 トン
ダイコン	4 トン
ニンジン	3 トン
キュウリ	2 トン

- (1) 上の表を見て、せいやさんは次のぎをもちました。
- ①に入る言葉としてもっともふさわしいものを次の1から4の中から1つえらび、その番号を□の中に書きましょう。

わたしたちが住むA市で作られている作物のしゆるいと量に注目してみると、①と思いました。



- 1 A市ではトマトを作っていないのはどうしてだろう
- 2 A市の南ではなぜ作物を作っていないのだろう
- 3 A市でトマトが多くつくられているのはなぜだろう
- 4 野さいを売る店がたくさんあるのはどうしてだろう

3

## 「読み取ったことを基に図や文などにまとめるこ」の問題例

### 社会 第4学年(5)「国際交流に取り組んでいる地域」

- 資料から読み取ったことを基に、国際交流に取り組む地域の特色を文にまとめるこを問う問題

- 資料から読み取ったことを基に、国際交流に取り組む地域の特色を2つの言葉を使って文でまとめる問題
- このような問題から、学習で身に付けた知識を使って自分で考えた図や文などでまとめる力(知識及び技能)の育成の状況について測る。

6 国際交流がさかんなA市の取組について、資料を見てあとの問題に答えましょう。

資料①【A市と国際交流のある国】



A市では、カナダにある姉妹都市との交流がさかんで、中学生が互いの国をほう問したり、スポーツ交流会を開いています。

資料②【A市の取組】



市役所では、外国人が生活を送れるように日本語を教える活動を行っています。小学校では、外国人をまねいて小学生が外国の文化を教わる交流会を開いています。



資料③【地元住民との交流】

A市に住む外国人もふえてきています。地元住民が外国人たちに声をかけ、伝統のお祭りをいっしょに行なうようになりました。

【通過率 85.4%】

【通過率 25.9%】

- (2) A市の人々は、どのような「まちづくり」をめざしていますか。□の中にある2つの言葉を使って、文を完成させましょう。特色 国際交流

このまちの人々は、

(正解例) 国際交流を特色としたまちづくりをめざしている

まちづくりをめざしている。